



し ろ や ま



令和6年1月25日号

『いのち』を大切に生きるとは

- (1) 『いのち』を輝かせる
- (2) 自分の『いのち』を守る
- (3) 仲間『いのち』も大切にし、守る

「いのち輝かせる」一年に

3学期は、新年1月9日よりスタートしました。今年の干支は「辰」、新しいことを始めて成功できる、いままで準備してきたことが成果になるなど、「縁起のよい年」と言われます。新学期の始業式では、「良い運気に乗れる人」とは「やることをしっかりと手を抜かずにやり切る人」「目標に向かって着実に努力できる人」であり、必ず努力は報われるものであり、「努力はウソをつかない」という言葉を紹介しました。さらに、今の毎日は自分磨きであり、日々努力したり、全力で取り組んだりすることは「いのちを輝かせること」につながると始業式で校長からお話しました。

児童代表は6年の中川瑞基さん、堂々と自分の今年一年の抱負と共に、残り僅かな小学校生活について話してくれました。

三学期頑張ること

中川 瑞基

僕が三学期頑張りたいことは学校の勉強です。頑張りたいたい教科は三つあります。

一つ目は算数です。中学生になると、算数は数学という教科になります。僕は算数が得意です。しかし、中学校での数学は今よりも難しくなると聞きました。得意な算数をもっともつと極めて、中学校の数学も理解できるようにしたいです。特に五年生で学習した割合を頑張りたいと思っています。なぜなら東海林先生が算数の中で「一番難しい」とすぐく熱く教えてくださいました。五年生では解けていたけれど、六年生になり間違えることがあったので、割合を復習していきたいと思っています。

二つ目は国語です。僕は漢字が苦手です。五十問テストでは毎回再テストになってしまいます。小学校までに習う漢字は千二十六字あります。漢字は中学校でも沢山の漢字を覚えなければいけません。千二十六字全部でなくても小学生の内にも一字でも多く覚えたいです。

三つ目は英語です。僕は外国人と話せるようになりたいと思っています。二学期に本沢のぶどうの認知度調査をしたとき、外国人にインタビューをしました。外国人同士が話している時の会話が全然分からなくて、とてもびくびくしてインタビューをしていました。だからぼくは英語の勉強を頑張って外国人の人も話ができるようになりたいです。

この三つの教科の勉強を頑張ることができると三学期にしていきたいと思っています。また、卒業まであと四十七日しか登校しません。限られた小学校生活の中で、六年生で取り組んできたことを下級生にしっかりと引き継ぎたいです。

大谷翔平選手のグローブが本沢小に届きました！

日本中全ての小学校に「野球しようぜ」の言葉と、大・小・右手用の3つのグローブをプレゼントする「大谷翔平選手からの夢のプレゼント」が、ようやく本沢小学校にも届きました。早速玄関ホールに展示し、体育の授業で使う準備をしています。今から使える日が楽しみです。



貴校ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。ロサンジェルス・エンゼルス・オブ・アナハイムのメジャーリーガー、大谷翔平です。

この手紙は、このたび私が学校に通う子供たちが野球に興味を持ってもらうために立ち上げたプログラムをご紹介します。この3つの野球グローブは学校への寄付となります。それ以上に私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。

このグローブを学校でお互いに共有し、野球を楽しんでもらうために、私からのこの個人的なメッセージを学校の生徒たちに伝えていただければ幸いです。

この機会に、グローブの寄贈をさせていただけることに感謝いたします。

貴校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

野球しようぜ。

大谷翔平

タブレット自宅での活用を全学年で

『各家庭でもタブレットを活用した学習を日常的に行う』文科省

『家庭学習の質を高め、自立した学習者を育成する』文科省

山形市では、全小中学生がタブレットを使用しており、多くの授業での活用が広がり、「普段使いの学習ツール（道具）」になってきました。

本沢小学校でも多くの学年で授業での使用をしていますが、山形市で昨年度6年生向けに導入された「AIドリル教材キュビナ」は、活用・使用率が市内でトップでした。また、新年1月より、1・2年生を含めた、全学年で『自宅にタブレットを持ち帰っての活用』を始めます。

タブレットを自宅ではどのように使うのでしょうか。コロナ禍で学校が閉校になってしまった時、能登半島地震で学校が避難所になって再開できなかった時にも、「自宅でタブレットを使った学習」は必要とされました。もちろん、非常時の学習を支えたり、テレビ会議のシステムを使って授業を配信したり、教材の配付や回収もできます。

しかし、本来は別の目的です。それは、「学校での普段使いの学習ツールを自宅でも使用する」ということです。OECD（経済協力開発機構：世界主要国38か国加盟）の調査で、他国の子供達が自宅でもICTを使って調べたり、学習したりするのに、日本の子供達はゲームやSNS、動画サイトなどの視聴に偏っていることがわかりました。つまり、すばらしい機器を持っていながら、他から流される情報を受け取ったり、映像や音楽を見たり聞いたり、誰かが作ったゲームをするだけの受け身の使用に止まっているのです。「自分から調べたり、学んだり、必要な情報を取捨選択したりする積極的な使用」との大きな違いが、近年のOECDでの学力テストの日本の低迷の原因の一つと考えられています。

そこで、文部科学省では「学習の個性化という側面からも、ICTの活用も含め児童生徒が主体的に学習を進められるよう、それぞれの児童生徒が自分にふさわしい学習方法を自己調整するような態度を育てることが大切」「ICT端末を活用して、自宅等で学習を日常的に行うことは、家庭学習の質を高めるだけでなく、自立した学習者を育成する上でも必要」としています。

本沢小学校では、ローマ字入力が難しい1・2年生でも、教材を受け取ったり、宿題に記入して提出したり、撮影したデータを送ったり、自分の制作を進めたりなど、できるところから活用をはじめ、学年が上がるごとにできることを増やしていきます。タブレットの自宅での活用の際し、充電やWi-Fiの整備、Wi-Fi接続等々、ご配慮いただくことがありますが、これからの教育に不可欠なものでありますし、上級学校進学の際にも同様の手続きが必要となりますので、ぜひ、ご理解とご協力をお願いいたします。

大盛り上がりの地提研

第66回地域と学校の連携研究会が12月16日（土）に行われました。

今年は「長谷堂こども合戦・冬の陣」と題し、長谷堂合戦ボランティアガイドの会会長の結城晋太郎先生の講話と、やまがた愛の武将隊による演武、合戦体験という内容でした。数年ぶりのコロナによる規制のない開催でもあり、多くの方々のご参加をいただき、子供達は、講演に真剣に耳を傾け、演武と合戦大会に全力で取り組むことができました。

